

4/30(土) まいど倫理号です。いよいよゴールデンウィークですネ。昔は楽しかったんですけど今は仕事の都合で楽しめません。

変わらないのは今も昔も同じ親子の関係で、良く出来た関係で、
良くないのも親子関係。 幸々 2022. 4. 30~5. 6

今週の 倫理

4月のテーマ | 一貫不怠

1279号

「ローマは一日にして成らず」「千里の道も一歩から」など、継続は成功の要件の一つであることは、時代と国をこえ広くいわれています。しかし、頭では分かっている、実行はなかなか難しいものです。では、どうすれば継続できるのでしょうか。

ある年の三月、Mさんは知人に誘われて、倫理法人会の経営者モーニングセミナーに参加しました。初めてのことでばかりで緊張しつつも、終わり頃には清々しい気持ちになり、その後の朝食会にも参加しました。

その際、Mさんは、ある経営者から「講師に悩みを相談してみても」と勧められました。事業のことでは特に悩みがなかったため、二人の息子について相談しました。

一人暮らしをしている大学生の長男は半年間も音信不通で、高校生の次男は非行に走るなど、親として子供たちを応援しつつも信じ切ることができていなかったのです。

Mさんの話を聞き終えた講師は、「あなたは自分の親をどう喜ばせていますか」と尋ねてきました。「なぜ子供のことを相談しているのに親のことを言われるのか」と怪訝そうに顔をしていると、講師は「純粹倫理では、親子はつながっていると教えます。あなたが今、お子さんのことで苦しんでいるように、あなたが学生だった頃、ご両親のかもしれない」と告げたのです。

講師は続けて、毎朝五時に起きて、紙に両親の名前を書き、「ありがとう」と感謝の気持ちを入れて挨拶をする実践を一〇〇日



継続力の根底にあるもの

間、続けるよう示したのでした。

実践を続けて一カ月が経った頃、Mさんは、両親が七人兄弟の自分たちを育てるために懸命に働いていた姿を思い出しました。そして、今まで大切に育ててもらったのに、何のお礼もしていなかったことに気づきました。

Mさんは、「これからは自分が親を喜ばせたい」と決意し、まず始めに毎年兄弟に任せきりになっていた「母の日」に、率先して母を喜ばせようと考えたのです。

母のほしい物を買に行き、母の好物と一緒に食べたMさん。久しぶりに親子二人で楽しい時間を過ごしたのでした。

「これからは、少しでも親を喜ばせていきたい」と思いながら帰路につき、帰宅して玄関の扉を開けた瞬間、何と音信不通だった長男から連絡があったのです。

親子の不思議なつながりを体験したMさんは、その後も親孝行の実践を続けました。すると、何も言わずとも、次男の非行も収まっていったのでした。

この事例から、継続には何としてもこれを叶えたいという強い意志が必要だということがわかります。Mさんの場合、それは私利私欲を離れた、我が子に対する「願い」でした。さらに、実践の継続による気づきで、親の心を知った時、その願いはより純化され、子供へと注がれていきました。

Mさんは今も、親を大切にする実践に努めています。願いが継続を生み、継続が願いを清めていくという循環が、今もMさんの原動力となっています。